



いちはら “福業” スクール

第1期 実施報告

2020年3月 のろし



いちはら “福業” スクールは
首都圏在住者と地域住民が
地域活性化プロジェクトを考える
プログラムです



■期間（1泊2日×2回）

A日程：1月25～26日（土日）

B日程：2月1～2日（土日）

発表会：2月22～23日（土日）

■参加者（A・B合計）

10名（10～40代）



■ ご協力頂いた団体（順不同）

#牛久にカフェを作りたいんだ

出張牛久商店街

オリーブコミュニケーション

NPO法人報徳の会・内田未来楽校

上総アートミッション（イドクボンガ）



1 日 目

オリエンテーション（自己紹介等）



参加動機や、初めて来た市原市の印象などを話し合いました



1 日 目

チームに分かれて団体訪問

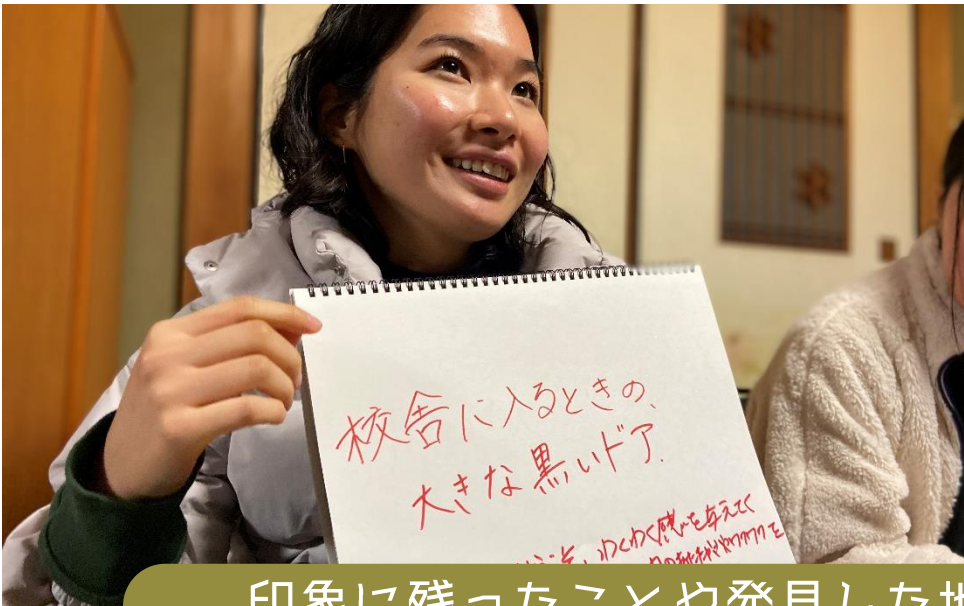


団体の方へのヒアリングや、活動の体験をさせて頂きました



1 8 目

振り返りワーク

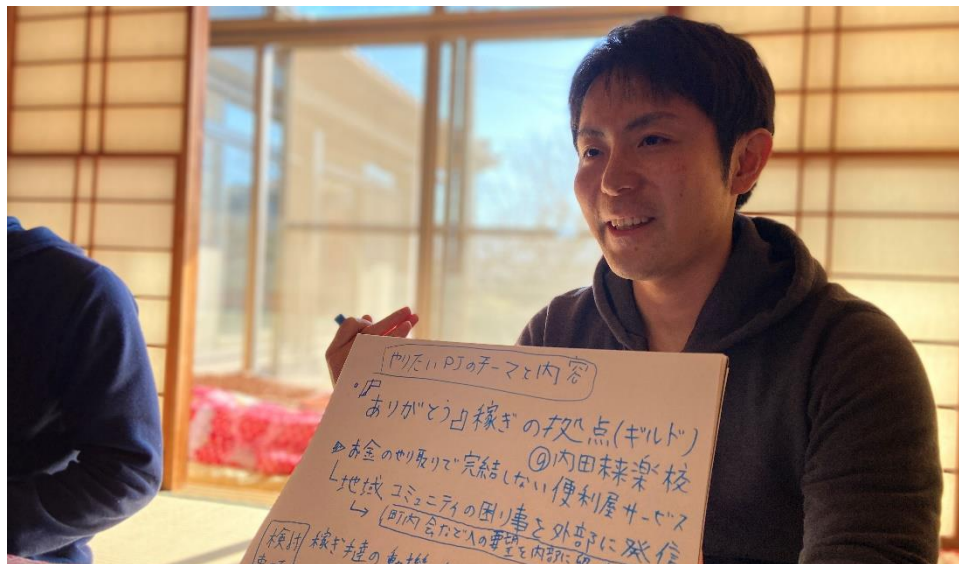


印象に残ったことや発見した地域課題などを言語化しました

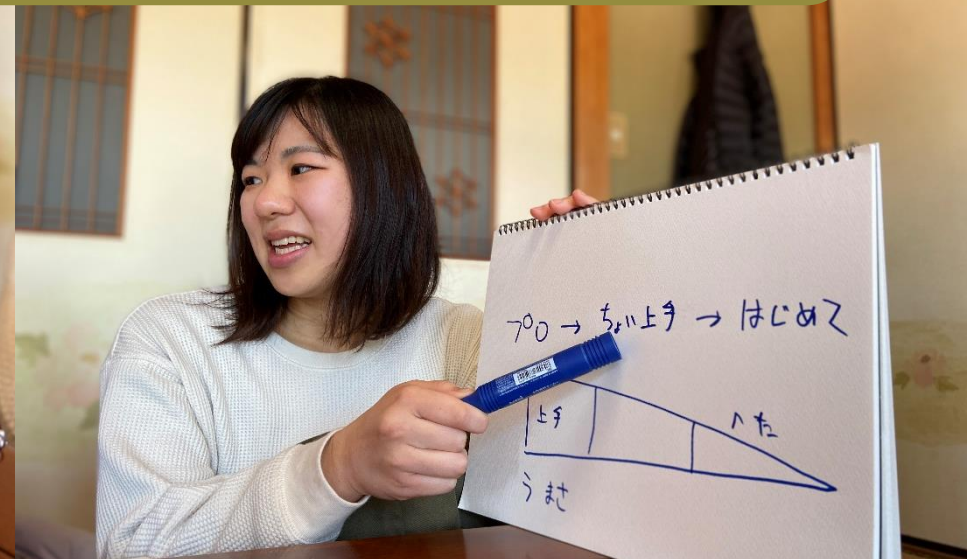


2日目

“福業” 起案ワーク



発見した地域課題を解決するプロジェクト（“福業”）を企画



2日目

全員で団体訪問

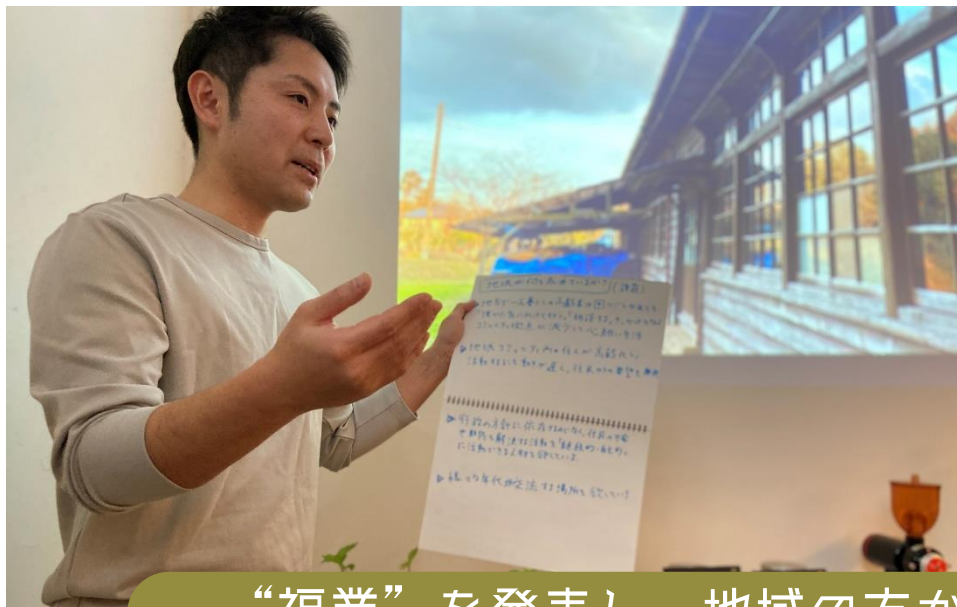


全員で同じ団体を訪問し、地域への理解を深めました



3日目

中間発表会



“福業”を発表し、地域の方からフィードバックを頂きました



4日目

最終発表会



中間発表会とは別の視点で“福業”への助言を頂きました



4日目

最終発表会（ワークショップ）



「しあわせ」を話し合い考えるグループワークを行ないました



< 団体訪問 & 振り返りワーク >

地域課題を知る & 参加者同士で共有



< “福業” 起案ワーク >

地域課題解決を盛り込んだ “福業” を考える



< 発表会 >

市民の方からフィードバックを頂く

“福業” のブラッシュアップ

< 団体訪問 & 振り返りワーク >

地域課題を知る & 参加者同士で共有



< “福業” 起案ワーク >

地域課題解決を盛り込んだ “福業” を考える



< 発表会 >

市民の方からフィードバックを頂く

“福業” のブラッシュアップ

■地域課題解決に対する成果

「地域課題に取り組む人」を新たに生み出した

どの参加者も、本事業終了後も継続的に市原を訪問するつもりでいる

※参考

事業終了後の1か月間（2020年3月）で

参加者10名中6名が市原を再訪！

→「関係人口」の創出にも繋がった

2020年3月市原訪問の様子



イノシシ解体体験



竹細工づくり



オリーブコミュニケーション作業手伝い



石神地区訪問

■地域課題解決に対する課題

市民の参画をどのように増やせるか

発表会の集客も苦戦したが、それ以上に、どの訪問団体も
「メンバーが足りない」と言っていた

■団体内部の課題

地域課題の深掘り

地域にはどんな課題があり、その原因は何か、などの
考察を行なうノウハウが足りなかったと痛感している
次年度以降、団体内で知見を蓄積したいと考えている

■今後の展望

「1期生」10名の“福業”への伴走

新型コロナウイルスに伴い市原訪問はしばらく難しいかもしれないが
オンラインで定期的なミーティングを行なうなどしてフォローしていきたい
(参加者からは、1か月半に一度集まって進捗共有をしたいという意見も出ている)

いちはら“福業”スクール第2期の開催

補助事業実施によりプログラム運営の知見が得られたので
継続開催し、地域課題解決の担い手・関係人口を創出していきたい